

実践紹介集（令和7年度）

浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

地区	No.	事業名	実施団体名
浜田	1	三階山の景観保全事業	みはし地域まちづくりネットワーク
	2	協働の環境保全～唐鐘川を救うのは唐鐘人だ！～ （2年目/令和6年度採択事業）	とうがねまちづくり推進委員会
金城	3	地域資源である「広浜鉄道今福線」の環境整備	雲城まちづくり委員会 今福まちづくり委員会
	4	音響機器購入事業	今福まちづくり委員会
	5	地域おもてなし環境整備事業（1年目）	小国まちづくり委員会
旭	6	ホタル生息環境のステップアップ事業	ふる里市木
	7	空き家を活用した「しゃべり場」づくり（1年目）	和田地区まちづくり推進委員会

事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：みはし地域まちづくりネットワーク

〔令和7年度採択分〕

令和7年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

三階山の景観保全事業

事業費（予算額）： 599,999 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000 円）

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

浜田市のシンボリックな山のひとつである三階山の景観保全のため支障木、伐採、集積をすることにより一人でも多くの人々が三階山に登ってその景観の素晴らしさや自然を体験して楽しんでもらうことを目的とする。こうした取り組みにより、地域のイメージアップに繋がるほか、登山やウォーキングによる健康増進にも期待がもてる。

D 事業の概要

- ・木の伐採は危険が伴う作業であるため、業者により浜田市内が一望できるように景観伐採に伴う支障木の伐採・集積作業を行う。
- ・作業期間を令和7年6月下旬から9月末とし、80m×15mの幅で伐採・集積した。

C 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

							○		
--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

・上記評価の理由

伐採・集積が完了し景観が素晴らしく良くなった。今後のPRや継続的な保全活動に課題がのこる。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

引き続き地元住民による草刈り雑木伐採を広く呼びかけて実施、継続して景観保全に努める。三階山の魅力を広くPRし、多くの人に登ってもらう具体的方法を検討し実行していく。



伐採前



伐採後

事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：とうがねまちづくり推進委員会

〔令和6年度採択分〕

令和7年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

協働の環境保全～唐鐘川を救うのは唐鐘人だ！～

事業費（予算額）： 989,240 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：989,240 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- ・唐鐘川の劣悪な環境は唐鐘地区住民の生活環境における最上位課題の解決。
- ・住民自らが環境保全への対策を施すことにより町に対する協働意識の醸成。
- ・地域課題解決の方法を次世代へ伝え、模範となるために行う事業。

D

事業の概要

- ・唐鐘地区全住民を対象とした町民アンケート結果の生活環境における最も解決すべき課題であった唐鐘川の環境改善を最上位課題と捉え、住民主体の課題解決策を実施する。
- ・中国電力が開発し水質浄化作用が認められた部材「Hi ビーズ」の埋設を行う。
- ・地区住民で構成された有償ボランティア組織「環境保全係」を中心に有償ボランティアを募り作業を行う。
- ・唐鐘地区住民へも周知を図り多くの人員との共同作業を通じたつながりづくりの機会をつくり新たな形のまちづくりの手法とする。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

										○
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

- ・上記評価の理由
- ・2カ年計画の事業であったが、計画通りの面積に埋設できたこと。
- ・輸送コストを下げることで限られた財源で事業費を賄えたこと。
- ・フォーラムでの実践発表やケーブルテレビ等で取り上げてもらったことにより参加者した委員や一部の住民のまちづくりに対する意識が向上した。
- ・河口付近の住民からも課題となっていた悪臭が改善されたとの意見があること。
- ・今後、これ以上に動力を使った事業を行うことはできないと思うくらいの内容だったと思うので10という評価にした。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- ・情報発信、周知方法を強化するためInstagram等のSNSを活用した周知を行うきっかけになった事業だった。
- ・一過性の事業に終わることなく今後も課題と向き合っていけたらと思う。



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：雲城まちづくり委員会、今福まちづくり委員会

〔令和7年度採択分〕

令和7年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

地域資源である「広浜鉄道今福線」の環境整備

事業費（予算額）： 1,986,600 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：1,986,600 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

広浜鉄道ウォーキング大会は県内外から200人を超す参加者がある。現地説明の際、旧線の一部が草に覆われ、また路盤は排水が悪く、歩きにくい箇所もある。参加者の安全確保のため、不可欠な事業である。

D

事業の概要

業者に委託し、旧線の一部の草木で覆われたエリアの木の伐採、草刈りや草の撤去を行った。また、路盤の排水対策、土砂・腐葉土の撤去や、アーチ橋の安全対策として覗き込み防止ロープおよび支柱の設置を他の業者に委託し実施した。
それぞれの作業を11月～12月にかけて実施した。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

・上記評価の理由

2月の広浜鉄道ウォーキング大会当日は、この課題解決特別事業の効果で、快適にそして安全に実施できた。多くの参加者も満足のいく大会となった。今後はこの活動をどのように維持していくかが問題である。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

両まちづくり委員会も定期的に、旧線、新線の除草作業を行っているが、協力してもらえる人が少なく、負担が大きくなっている。

雲城まちづくり委員会、今福まちづくり委員会ともにこれからも連携を図りながら、幻の広浜鉄道を守る活動を継続していきたい。



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：今福まちづくり委員会

〔令和7年度採択分〕

令和7年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

音響機器購入事業

事業費（予算額）： 257,840 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：257,840 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

今福地区は、文化的行事や催し物・研修等が盛んであり、多くの地区民が活動している。まちづくり委員会とまちづくりセンターは、連携して活動しているが、文化祭や文化サークル・各種研修及びサロン活動等の発表時に、音響機器不足のために、各センターや関係団体から借用しているが、不便であり、地区民や利用者から改善を強く要望されているため、ワイヤレスマイク付拡声器スピーカーとマイクスタンドを購入した。

D

事業の概要

購入したワイヤレスマイク付き拡声器スピーカーとマイクスタンドを今福まちづくりセンターで管理し、まちづくり委員会所属のサークルや団体による事業を中心に、地域住民による各種研修やサロン活動等で活用した。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

・上記評価の理由

設置後、マイクが今までの2個から4個になり、文化祭やいきいきサロン、人権学習でのパネルディスカッション及びスピーカーを活用した映画研修等、充実した活動となっている。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

今福まちづくりセンターを核に、音響機器の充実により、イベントやサロン・サークル活動及び各種研修等の持続可能な事業展開を目指す。



スピーカー



ワイヤレスマイク

事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：小国まちづくり委員会

〔令和7年度採択分〕

令和7年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

地域おもてなし環境整備事業

事業費（予算額）： 554,256 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：554,256 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

桜公園を造成し、地域の安全性確保と地域内交流・関係人口交流の場としての活用を図る。桜公園は地域住民の憩いの場として利用されているが、地面の凹凸等の整備不良から安全面が懸念されていた。公園整備によりそれらの課題が解決されるとともに一層の交流促進等が期待できる。

D

事業の概要

- 公園入口や駐車場等の整備のために、健生会を中心に地域住民が出役し、側溝の整備や道路面の舗装等を行うとともに、道路から公園に至るまでの「案内板」を手作りし設置した。
- また、桜公園のシンボルとして、手作りの看板に有志が描いた桜の絵に、地域内の保育園児や住民の方による「手形」をスタンプいただいたモニュメントを桜公園入口に設置するなど、公園に対する地域住民の愛着が芽生える工夫も行った。
- 桜公園の整備状況を小国の地域内外の方に広く知っていただくために、まちづくりセンターに所属する「地区サポーター」の協力を得てInstagramにより住民参加による公園整備の状況や住民の方々の取組みを逐次情報発信し、「小国のファンづくり」に務めた。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

・上記評価の理由

地域の老若の方に出役頂いたことを通じて、小国集落に対する愛着が高まるなど地域を想う「心おこし」に繋げることが出来た。また、Instagramによる情報発信は、住民の小国に対する愛着を深めることにも繋がった。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

今後、桜公園を場として地域内の年代層を超えた交流を促進するとともに、Instagramによる情報発信活動を精力的に行うなど、地域外の方の受け入れを増進するなど関係人口の増大を進めていきたい。



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：ふる里市木

〔令和7年度採択分〕

令和7年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

ホタル生息環境のステップアップ事業

事業費（予算額）： 1,400,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

ホタルを地域づくりに活用することで、観光客や関係人口の誘致の呼び水とする。そのために、自然環境の保全に繋げる。ホタルの生息環境を整備し、ホタル鑑賞イベントなどを開催し、地域経済の活性化や、地区住民の意識向上にも繋げる。IT 化にも取り組み、事業を円滑に実施する。

D

事業の概要

- ① ふる里市木のホームページでホタル関連行事の紹介や来場者募集。
- ② 本年度、初参加の県立大学学生さんへの、勉強会を開催。（当日別途開催）
- ③ 地区外鑑賞者のため、ホタル鑑賞路の整備及び簡易トイレ設置。（6 月）
- ④ ほたる祭りイベントの開催。（6 月第2 土曜日）
- ⑤ 地元住民ボランティアグループによる、ホタルの採取、飼育と放流。（6 月）
- ⑥ 旭のふるさと祭の機会を利用しての写真展示と俳句募集。（中学生との協同）

C

課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

							○			
--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--

- ・上記評価の理由
- ・ホタル鑑賞も含め県内外から来場者が約 1,000 人を超えたが、観賞広場に簡易トイレを設置し環境美化に対応できた。
- ・新しい試みとして、県立大学生さん 25 人が参加され、今後若者視線の企画が期待出来る。
- ・祭り以降に中学生の地域学習に結び付けられた事で地域内への浸透が期待できる。
- ・ホタル学習として、地域外団体からの共同作業の提案があり、次年度に継続が可能となった。
- ・事業計画と予算編成で、従来のイベント規模や内容の検証が必要である。
- ・ホタル祭りから、ホタル観賞地域への移行検討時期を迎えている。
- ・ホタル増殖研究会への協力が必要。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

ほたる生育環境の整備と保全

- ・ホタル増殖研究会の支援拡充
- ・ホタル祭り共同企画者の掘り起こし
- ・ホタル生育環境の整備
- ・ホタルが生育出来る河川に対する住民意識の向上

ほたる祭りの運営と継続

- ・会場内イベントの見直しと環境の充実
- ・実行委員会方式での主体性の定着
- ・地元支援者に無理のない範囲で企画
- ・予算に応じた祭り開催の運営
- ・ほたる祭りの地域外情報発信



ホタルの増殖研究会の説明



会場内の様子



会場外の様子

事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：和田地区まちづくり推進委員会

〔令和7年度採択分〕

令和7年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

空き家を活用した「しゃべり場」づくり

事業費（予算額）： 1,163,600 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：1,000,000 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

地域資源の空き家を活用し、この地域で暮らす子供からお年寄りまで、誰もが「気軽に話がで
きる場」「情報収集の場」を提供し、住民同士の「顔が見える」状態をつくる。また農村 RMO 推進
事業で取り組んできた、空き家活用の運営や地域課題解決の活動拠点をつくる。

D

事業の概要

〔交流の場〕

- 各種打合せをしたり、趣味を通じた人同士が繋がる場。
- 作業の合間など、住民が気軽に立ち寄れる無料休憩所。

〔情報発信の場〕

- 和田まちづくりセンターの情報発信の場として、他のまちづくりセンターや浜田市、島根県
内のイベントなどの情報を発信。

〔地域課題解決拠点〕

- 同店舗や空き家を利用した田舎体験の運営やにんにく事業の活動拠点。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

							○		
--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

・上記評価の理由

開店が遅れ、イベント開催も遅れているが、
開設できたことは非常に大きい一歩だった。特
に実際に利用した方々の意識の変化が大きい
と感じた。より多くの方の利用促進策が必要。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組む
こと（評価を10に近づけるために）

- 面白そうなミニ教室やセミナーを毎月開催
し、幅広い方にまずは来てもらう。
- 夏場の熱中症対策のクールスポットとして
利用してもらう。
- 空き家などの相談窓口や様々な事務ができ
る場をつくり、出入りする人や機会を増や
す。

